

Lingkaran

第9巻第3号 2006年5月15日発行
(寄附金15日発行) 通巻第13号

[心とカラダにやさしい生活]



リンカラン Vol.17 [5月号] 定価780円(税込)

・VOLUNTAS・

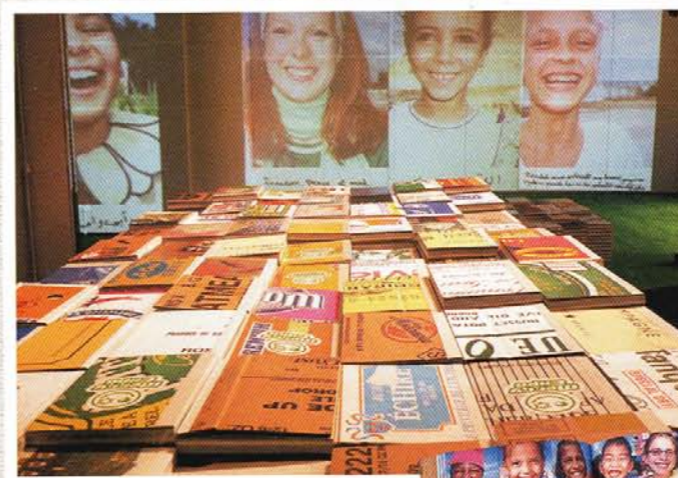
① 2

ヴォランティア...0

[Merry Project]

文・井上晶子 撮影(※)・森崎一典

「あなたにとって
Merryとは何ですか？」
世界に1冊しかない本



上/名古屋で開催された「Book of global exchange」。会場の一角に平積みされたカラフルな写真集と、壁一面に投影された各国の人々の笑顔。下/段ボールをリユースした写真集「Merry EXPO Book of global exchange」。定価1500円。左/愛知万博の会場

Merry Project

「人々の笑顔で世を元気にしよう」をコンセプトに、震災後の神戸、同時多発テロ1年後のNY、そして長引く不況で元気の出ない東京の各所で、笑顔のコミュニケーション・アートを展開。2005年には愛知万博に出展。ほか、フリーペーパーやポスター、写真集なども手がける。写真集の問い合わせはwww.21merry.net

2005年に開催された愛・地球博。この展示場の一角に作られた大スクリーンに登場する子供たちの笑顔、笑顔、笑顔。
「笑顔は世界共通のコミュニケーション」を合言葉に過去6年に亘って展開されてきたプロジェクトの話。

「あなたにとってMerry(しあわせ)とは何ですか?」世界23カ国を旅して、2万人を超える子供たちに質問し、その笑顔を写真に収めてきたプロジェクトが、昨年開催された愛知万博の会場で、ひとつの実を結んだ。開催期間中「愛・地球博」に設けられた巨大ビジョンで、その2万人以上の満面の笑みが映し出され続けた。その広場で想う来場者は、何を想い、どう感じたのだろう。会場に付いた「笑顔の万博(Merry EXPO)」の名に相応しく、集まった笑顔は千差万別。年齢もさまざまだら、人種、国籍も。黒、褐色、白、黄色の肌、茶色、黒、青、緑の瞳(といっても笑っているから色はわかりにくい)が、髪の色も同じ色は二つとしてなくらいに、百花繚乱の笑顔。笑顔に添えられた言葉は、冒頭の質問の答えだ。その文字もいろいろ。「笑うこと」「僕にとって幸せとは大切なこと。だって健康にいいから。それは自然なこと」「アイスクリーム」「パパとママが大好き」「学校に行けることが嬉しい」「雨が降ること、牛が健康であること」「歌うこと」「恋人にぎゅってられること」「太陽が輝いている時」...答えも千差万別。万博終了後、このプロジェクトはまた新たに「Book of global exchange」となって、世界に羽ばたく。本来なら廃棄される万博会場に輸送されてきた各国からの段ボールに息を吹き込んだ。使用済みの段ボールをリユースし、1冊ずつ手製本して笑顔の写真集を作った。みんなが一人ひとり違うように、1冊ずつが一点もの。世界に1冊だけの本が出来上がった。本の売り上げは、南アフリカ共和国の子供たちへ学校を贈るために役立てられる。そしてまた笑顔の種が散る。その笑顔は、また次の笑顔を連れて来る。この写真集の販売イベントが、今年2月と3月に東京と名古屋で開催された。ここでも子供たちの笑顔が壁面いっぱい映し出された。色とりどりの段ボールに包まれた小さな写真集が積み重なっている。会場には、Merryが溢れていた。さて、今度はあなたが答える番だ。あなたにとってMerryとは?